

会議名	長浜市指定管理者選定委員会第2委員会 (令和3年度第5回会議)
日時	令和3年10月21日(木)
審査対象	長浜文化芸術会館及び浅井文化ホール

審査結果概要

- (1) 施設所管課(生涯学習文化課)からの募集経過説明
- (2) 申請団体(株式会社ロハス長浜)による説明、プレゼンテーション
- (3) 質疑応答【以下質疑応答①のとおり】
- (4) 申請団体(公益財団法人 長浜文化スポーツ振興事業団)による説明、プレゼンテーション
- (5) 質疑応答【以下質疑応答②のとおり】
- (6) 採点、集計
 - 申請者名 : 株式会社ロハス長浜
800点満点中: 603点(100点満点中: 75.38点)
 - 申請者名 : 公益財団法人 長浜文化スポーツ振興事業団
800点満点中: 636点(100点満点中: 79.50点)
- (7) 審査【以下審査のとおり】
 - 指定管理者候補として適当と判断する者
 - 所在地 長浜市地福寺町4番36号
 - 名称 公益財団法人 長浜文化スポーツ振興事業団
 - 代表者 理事長 堀川佳孝
 - 選定にあたっての条件 特になし

質疑応答①(申請者:株式会社ロハス長浜)

- (委員) 組織体制について、長浜文化芸術会館と浅井文化ホールの舞台技術スタッフを共有するとお聞きしたが、秋の文化の日など行事が重なったときはどのように対応するか。
- (申請者) 本部や他の施設からの応援、学生や劇団のボランティアにも協力いただく。そのほか技術者のネットワークがあるので外注して対応する。事業に支障がないようにする。
- (委員) 地域の方でいろんな年齢層の方が親しまれているのはいいと思う。あしながプロジェクトについてどのくらい的人数が応募して、どのくらい参加されたか。
- (申請者) 事業によって異なるが、1回の公演で10名から30名の応募である。夏休み文芸塾では子どもたち20名に参加いただいた。坂口志文栄誉教授をお呼びして実施した若者向けの講演会は300名入っていただいた。
- (委員) 子どもによってはホールに行きたくても行けない子たちもいるが、地域の子ども会など団体でチケットを買うことは難しいか。

- (申請者) 夏のクラシックライブは夏休み中ということもあって子ども会に宣伝を行ったが、子ども会の単位で行動することは難しく、参加するかしないかは各家庭で判断いただくことになる。組織だって子どもを集めることはできていない。教育委員会とも協力しながら講演の機会を活用していきたい。
- (委員) コロナ前の収容人数とコロナ中の収容人数と今後の収容人数の見込みはどうか。
- (申請者) 長浜文化芸術会館は450席、浅井文化ホールは480席で、500人以下の中ホールになる。コロナ禍では、本来の約半分の席で運営してきた。今は100%を入れてもいいということではあるが、徐々に増やしていきたい。
- (委員) 最終的には徐々に席数を増やして料金も正常通り回収できるということでもいいか。
- (申請者) 問題なく公演を続けることができればそうである。
- (委員) 管理運営の方針に記載されている市内の施設間での連携について、具体的にはどのようなものか。
- (申請者) 指定管理のほか、長浜市民芸術文化創造協議会の事務局を担当し、施設の運営以外に南は文化学習センターから、北は木之本スティックホールに出向いて講演企画を行った。広報面では、すべてのホールを網羅して情報発信を行った。すべての文化施設が手をつなぎながらやっていく中心となっていると自負している。
- (委員) 長浜、浅井以外の文化ホールも状況が変わってきている。文化芸術の振興を図ることについて株式会社ロハス長浜の考え方はどうか。
- (申請者) 浅井の地域づくり協議会と浅井の文化祭をどうするかという話をしている。ホールのみではなく地域づくり協議会と連携をしながら進めていきたい。文化祭が主ではあるが、余呉では写真展も各ホールと連携してやっていきたい。学校に出向いた事業もやっていきたい。
- (委員) 長浜文化芸術会館は、令和元年度の利用者数を令和8年度に達成する目標としている。浅井文化ホールは、令和元年度の利用者数が令和8年度を上回る目標となっている。なぜ違うのか。どのような年齢層や団体をターゲットとしているのか。
- (申請者) 浅井文化ホールのような過去から利用者数を伸ばす目標が通常である。中学高校や若いターゲットで伸ばしていけると思う。長浜文化芸術会館は、入場者が多い子ども美術展が行われなくなってしまった。このことから現実的な数値を算出している。演劇は若い人が来ていただけるが、伝統芸能を引き続きやっていく、高い年齢層をターゲットとしていく。
- (委員) 利用者のアンケートについて、具体的に改善した大きなことは何か。
- (申請者) 一番はトイレがきれいに使えるようになったということ。市に実施いただいたが、浅井文化ホールの和式トイレを洋式に変え

- た
- (委員) 33ページ収支計画書において、令和6年度の収支が大きく変わっている理由は何か。
- 申請者 大型鑑賞事業は毎年フルサイズの事業をできるわけではなく、5年の中で2～3回実施したいと考えている。集客とチケットの単価を考えながら実施するため収支計画にばらつきが出る。

質疑応答② (申請者：長浜文化スポーツ振興事業団)

- (委員) 17ページの舞台運営に関してボランティアの育成とはどういう活動か。
- (申請者) 27ページの自主事業でも提案を行っているが、バックステージ体験会で舞台運営への関心を高めるきっかけづくりであり、協力ボランティアの育成につなげていきたい。また、文スポ友の会の会員から、ボランティアを募っている。継続して募集するため交通費などは支給する必要があると考えている。
- (委員) 電力供給会社の契約内容の検証と使用料金の節減について、32ページからの収支計画書の光熱水費は年々上がっているが、節減の効果は反映されていないということか。
- (申請者) 電気料金の節減は、一般電力会社を選んで少しでも安くして契約をする予定である。様々な利用促進の事業を展開することで5年で利用者を2500人増やす計画していることから、節減は行うものの、利用者の増加によって増えていく。
- (委員) 利用促進について、20代、30代の利用者を20%増やすことについて、若い世代の方は多様な感覚を持っている中で、これを達成するために具体的にどのように事業を実施するのか。
- (申請者) 若者層に対して、ツイッターやフェイスブックで情報発信を行っていく。また、SNSを活用したニーズの把握や意見のリサーチを行う。そのほか、30ページの任意様式のとおり若い世代向けの様々な事業を計画している。若い世代の方に多く利用していただくため電子チケットやオンライン配信を行い、利便性の確保に努める。
- (委員) 30ページを見ると20代、30代を取り込むことがホールの活性化につながるという判断であるが、事業内容はオーケストラ講演など、これまでと内容はあまり変わっていないように思うがどのように考えているか。
- (申請者) オーケストラ講演は指揮者を体験できる形で実施したい。できる限りオンライン配信を行うことで若者に関心を持っていただきたい。演劇については、子ども参加型の会議、手話パフォーマンス、若者世代に少しでもホールに来ていただけるように取り組む。
- (委員) 過去に浅井文化ホール、長浜文化芸術会館の指定管理を受けていたが、両館の管理から離れた際に、専門的な技術者の雇用を整理されたと思うが、人員の確保や雇用の調整の課題はないか。
- (申請者) 現状事業団に文化ホール施設の必要な資格の職員は多数在籍し

ている。新しく指定管理を受けられれば人員の補充を行う。経験者の採用や市内の方を優先して雇用を考えている。組織体制に記載しているが、各ホールで舞台技術、照明、音響が必要になる。舞台技術チームを事業団内に組織し、柔軟に対応していきたい。

- (委員) 巡回作品展のオンラインの配信について、その場で映していただけるとのことか。
- (申請者) そういったことも検討していきたい。美術展覧会は部門ごとに審査を行い先生が公表される。そういった多く人が集まる部分をオンラインで配信できると密を避けられると思う。巡回作品展もニーズはあると思う。受賞作品も委員と検討していく必要があるが、優秀な作品は巡回して展示して多くの方に見ていただく。
- (委員) 名前が出ると個人情報の問題もあると思うが、そういうのを見せていただけるといいと思う。学校もタブレットが使えるようになってきているのでオンライン配信はいいなと思った。
- (申請者) 生涯学習の次世代を育てていくということで、放送大学の取組はどうか。
- (委員) 現在も放送大学は専用の部屋があって、学生が事務所を使用できる。引き続き放送大学の学生のみなさまに通常の手続きをとっていただいで使用いただけるようにする。
- (委員) 収支計画について、令和6年度と令和7年度に文化振興収入に変化があるがどういう理由か。
- (申請者) 令和7年度については手話パフォーマンスを計画しており、幅広い年代を対象として多くの方にお越しいただき理解を深めていただくために利用料金を低く設定している。このことから収入が少なくなっている。

審査

- (委員長) 集計結果を踏まえ、指定管理者候補として公益財団法人長浜文化スポーツ振興事業団、次点者として株式会社ロハス長浜が適当かどうか意見をお願いします。また、評価できる点、改善できる点があれば意見をお願いします。
- (委員) どちらも地域密着でやっているのはいいと思った。利用促進の部分でオンラインを活発にやっていた部分を評価した。
- (委員) どちらの申請者も実績があり、いろいろな活動の提案で甲乙つけがたい部分があったが、財務状況から見ると規模が大きいところでスポーツ振興事業団の点数が高くなった部分はあると思う。
- (委員) 両申請者について、ホールの管理だけではなく文化芸術事業を率先して引っ張っていただけれることを期待する。市域全体の文化芸術振興を高められるようお願いしたい。
- (委員長) 結果から言えば甲乙つけがたい。絶対評価を行ったが、どちらも地域に密着し、多様な年代層、団体の視点からたくさんの事

業メニューを提示いただいた。財政面から言うと文化スポーツ振興事業団が今後5年間の指定管理者として運営していくにあたり安定していると考え。株式会社ロハス長浜も文化芸術会館と浅井文化ホールを一体化して地域に密着した事業をされてきた。実績を踏まえて事業を提示されたと評価している。文化スポーツ振興事業団の提案事業の具体化は未知数ではあるが、結果として受け入れたい。これでよかったと思う。

それでは、指定管理者候補として公益財団法人長浜文化スポーツ振興事業団、次点者として株式会社ロハス長浜として決定してよろしいか。

(異議なし)

結論、指定管理者候補として公益財団法人長浜文化スポーツ振興事業団、次点者として株式会社ロハス長浜とする。